

12 加古川中流部 (西脇市～篠山川合流)

保全 比高の大きな横断工物が少なく、水辺に自然林・二次林が接する場所も散在する。低水敷内には、ワンドや孤立水域もみられ、さまざまな立地に対応した多様な植生が成立している。

課題 山南仁王堰が流下土砂を遮断しているようで、下流側は河床が固定化傾向にある。湛水化によるプランクトンの増加が影響しているのか、透過摂食性の付着動物が河床表面を覆っている。

13 杉原川上中流部 (奥荒田川合流より上流側)

保全 低水護岸率が低い区間が長く連続する。加古川水系のなかでは、水温の低い区間が連続する。

課題 横断工物が比較的多い。数箇所ですべて「名前のある淵」が消失・矮小化し、大きな淵がほとんど残っていない。上流部は、山間部を流れるが、水辺は植生が多い。とくに上流部において、水枯れ・減水区間が広い範囲におよぶ。上流部としては、底生動物の種数が少ない傾向がある。

15 加古川上流部 (青垣町)

保全 全般に低水温が維持されている(倉川合流点付近は非常に低水温)。タカハヤなどの冷水性魚類が多いほか、底生動物の種数が多い。

課題 「名前のある淵」の多くが消失し、大きな淵がほとんど残っていない。上流部としては、低水護岸率が非常に高い。減水・水濁れ箇所が随所にみられる。

17 篠山川下流部 (川代溪谷)

保全 加古川水系の他では見られない荒々しい様相の景観が展開される。瀬・淵が明瞭で、すぐれた河川形態を有する。護岸が少なく、水辺には随所で自然林・二次林が接する。

課題 川代ダム(H4竣工)による湛水化の影響がみられ始めているのか、河床が固定化傾向にあるようで、河床には中小礫が非常に少ない。

11 杉原川中下流部 (本川合流～奥荒田川合流付近)

保全 低水護岸率が低い区間が長く連続する。大きくて深い「名前のある淵」「岩滝」が残存(矮小化)。中下流部としては、底生動物の種数が多い。

課題 横断工物が多い(ある程度は魚道が設置されている)。いくつかの「名前のある淵」が消失・矮小化し、大きな淵がほとんど残っていない。多くの人がホタルの減少・絶滅を指摘した。

10 野間川水系

保全 水辺に自然林・二次林が接する場所が散在する。底生動物の多様性が高い地点が多い。

課題 中上流部で魚道のない横断工物が多い。中下流部は、湛水域面積比率が高く、大きな淵はほとんどみられない。野間川中流部は、中小河川としては水温が高い。

14 加古川中上流部 (篠山川合流～芦田川合流)

保全 比高の大きな横断工物が少ない。低水護岸率がほとんどない区間が連続し、水辺には自然林・二次林が接する箇所が散在する。湧水地帯として知られおり、緩勾配の大川のわりには、水温が低く、冷水性魚類が豊富である。全体を通して、魚種の多様性が高い。

課題 過去には確認されてきた貴重な魚類が、近年は生息情報がない。

16 加古川上流 (市原付近)

保全 貴重な水生植物の生育地。

課題 1997年には、貴重な水生植物が見られたが、現在は激減している。

19 篠山川上流部 (畑川合流付近より上流側)

保全 畑川合流～夜見川合流付近は、比高の大きな横断工物が少なく、低水護岸率が低い区間が連続する。上流部であるが緩勾配で、水辺にはヨシ群落やオギ群落がみられる。希少な魚類の生息地。

課題 「名前のある淵」の多くが消失し、明瞭な淵は比較的に少ない。

20 柏原川

保全 下流部は緩流性希少種の生息地。

課題 上流部や小支川には三面張り区間が少なくない。中上流部は魚道のない横断工物が多い。浮石が少なく、大型糸状緑藻が繁茂する地点が多い。下流部は、水質がやや汚濁傾向にあり、北部の小支川としてはきわめて高水温になる。

18 篠山川中流部 (宮田川合流～畑川合流付近)

保全 大きくて深い「名前のある淵」「野間の弁天」が残っている。

課題 いくつかの「名前のある淵」が消失(間取)。大きな淵がほとんど残っておらず、河川形態はやや単調。魚道のない横断工物が多く、一部に低水護岸率が高い箇所がある。

09 万願寺川水系

保全 下流部のごく一部に止水性の魚類が生息する。

課題 万願寺川・普光川などを中心に、魚道のない横断工物が数多く分布。中下流部は、湛水域が水面面積の広い範囲を占める。随所で「名前のある淵」が消失・矮小化し、おおむね河川形態は単調。浮石が少なく、おむね河川床は固定化傾向にある。上流部の小河川では、大型糸状緑藻が顕著に繁茂する。芥田川では、流量がきわめて少ない。高水温の地点が多く、下流よりも明らかに高い地点も少なくない。

08 千鳥川水系

課題 比高が高く魚道のない横断工物が多い。中下流部では、湛水域の面積が大きく、河川形態は単調。上流の一部は三面張り。流量が少なく、大型糸状緑藻が繁茂する。千鳥川上流は非常に高水温となる。

06 東条川水系上中流部 (鴨川合流付近より上流側)

課題 多くの「名前のある淵」が消失・矮小化。四斗谷川は、魚道のない横断工物が集中する。河床に中小礫が少なく、露岩が目立つ地点が多い。浮石も少ない。明神川は、上流部の小河川としてはきわめて高水温が観察された。四斗谷川では、減水・水濁れ区間がみられた。

07 出水川

保全 希少な貝の確認地点。生息地は変遷度が高く、生息場所はきわめて狭く脆弱な状況にある。

課題 魚道のない横断工物が高密度で分布。三面張り区間が連続し、河川形態は単調。小河川としては水温が高い。

04 万勝寺川

保全 平地の小河川としては、低水護岸率が比較的低い。南部支川ではほとんど見られないカワツグが分布する。環境悪化の目立つ南部の支川のなかでは、きわめて希少。

05 東条川水系中下流部 (鴨川合流付近)

課題 数箇所ですべて「名前のある淵」の消失・矮小化の情報があり、大きな淵がほとんど残っていない。小支川はほとんど三面張り。水質がやや汚濁傾向にあり、全般に、高水温で、鴨川合流付近では下流側よりも高くなる。

03 美轟川水系

保全 全般に、明瞭な蛇行を描いて流れる。河川形態は比較的良好であり、美轟川中上流部では、比高の大きな横断工物が比較的に少ない。

課題 志染川上流部・北谷川上流部は、横断工物が集中する。美轟川下流部には、比高が高く魚道のないものが多い。淡河川・志染川では、多くの「名前のある淵」が消失・矮小化した。美轟川下流部は、河川形態が単調。北谷川は、低水護岸率が高い。水質汚濁、強く頻繁な濁水の流下、高水温が確認された地点が多い。下流よりも明らかに高水温の地点も少なくない。

01 雲川・別府川・西川

保全 緩流性希少種を始めとする魚類の種数が豊富。

課題 低水護岸率が高く、河川形態は単調。多種の外来魚が侵入している。ホタルの減少・絶滅を指摘した人が多い(間取)。

02 美轟川中流部 (岩宮井堰～三ヶ井井堰)

保全 貴重な植物が群生する。

全体区分

- 各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

魚類・底生動物の現地調査地点

- 調査地点

回遊種の確認上限

- 近年の確認上限
- 過去の確認上限

植生から見た流域区分

- ツルヨシ・ネコヤナギ型
- 移行帯
- オギ・ツルヨシ型
- 感潮域

横断工物の確認位置(水面比高0.2m以上)

- 魚道あり
- 魚道なし

間取調査による名前のある淵の現状

- なくなった
- 浅くなった / 狭くなった
- 変わらなかった
- 不明

予察調査による河川環境の記録

- 課題が見つかった箇所